

高尾山フィールドワーク報告書

2009/10/7

学観連メンバー各位

9月26日~27日に初めての企画として行われた高尾山フィールドワークについて簡単ですが報告させていただきます。

一日目は実際に高尾山に行ってフィールドワーク、二日目は討論会という形で行いました。

<参加大学>

桜美林大学、学習院大学、川村学園女子大学、関東学院大学、帝京大学、横浜商科大学、淑徳大学、立教大学の8大学、32名と宍戸先生でした。また、二日目の討論会では京王エージェンシーの方が、各班の発表を見学してくださいました。

<一日目>

A~F班に分かれフィールドワークを行いました。

A班・F班→若年層

B班・C班→家族層

D班・E班→熟年層

というように班ごとターゲットを定めて、行きはそれぞれ指定されたコースで高尾山へ登りました。調査方法は班によって様々でしたが、各班とも実際に登山客にインタビューなどを通し観光客の生の声を聞きながら調査をいたしました。

また、TIJさんより依頼のあった「東京オリンピック招致バッジ」を登山者に配付しました。

天候にも恵まれ、けが人も出ず、楽しみながら高尾山フィールドワークを行いました。

<二日目>

横浜商科大学みどりキャンパスで討論会を行いました。テーマは「人々にとっての高尾山とは」「観光における今後の高尾山の展望と課題」「観光客誘致のための戦略」とし、それぞれの班に与えられたターゲットごとに討論、グループ発表を



高尾山での聞き取り調査



オリンピック招致バッジ配付

行いました。

若年層がターゲットの A 班と F 班では、若者の登山へと危険認知度が低いことや登山のルールを違反するなど、若者にルールや知識を知らせる必要があるという意見がありました。

家族層がターゲットの B 班と C 班は、山頂に家族向けのベンチを増やしてほしいことや、家族が気軽に楽しめる山であること、リフトやケーブルカーが家族連れによく利用されているということがあがりました。

熟年層をターゲットにした D 班と E 班は夫婦で登山をする熟年層が多い点を上げ、本格的に登山をする熟年層にとって更衣室があれば便利なのではという案が出ました。

また多くの班から、ミシュランに掲載されたからといって手を加えることはせず、高尾山は現状を維持することが大切だという意見も多く出ました。

今回の高尾山フィールドワークでは、多くの参加者から楽しかった、他の大学の人と知り合いになれてよかったなど、良い感想を耳にすることができました。これからも、今回以上に同じ観光を学ぶ者として、交流を深め、お互いに良い刺激を与えつつ向上していける活動をしていきたいと考えております。

最後に・・・

今回参加されなかった方も、次回の講演会やその他の活動にもぜひ参加して頂きたいと思えます。

フィールドワークに参加された方の中には、最初「自分がフィールドワークを行い、また討論会で意見を言って発表するなんてできるだろうか」と不安を感じている方もいらっしやったようですが、二日目の討論会では皆積極的に発言し、活発な議論が行われていました。

ぜひ学観連で自分の力を試してください!!そして日本の観光を元気にしていきましょう!!
これからも、日本学生観光連盟をどうぞ宜しく御願ひ致します。



グループ発表風景



最後に参加者全員で記念写真